

愛恵だより

第 13 号

2024年2月1日 発行

発行：公益財団法人 愛恵福祉支援財団
〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1 愛恵ビル5F
電話：03-5961-9711(代) / FAX：03-5961-9712
<https://www.aikei-fukushi.org/>

「愛恵」の題字は初代理事長 三吉 保 氏による

愛恵のミッションに倣う。「応える」支援へ

公益財団法人 愛恵福祉支援財団
常務理事 杉 浦 孝 夫

「社会福祉の担い手を育てる。」を目的として2012年財団設立以来、「福祉支援」事業を展開している。「福祉支援」とは、社会福祉事業関係者への「助成事業」である。事業のほとんどは、社会福祉の分野で福祉事業を行っている事業者、団体に資金的援助することがほとんどだが、資金以外に事業者をさまざまに支援すること、財団の独自事業もある。

公益法人助成センターの調べによると公益目的事業法人は2021年12月現在、9,600余を数えており事業支出は5兆円超とのことである。民間助成団体としての社会的役割、期待も大きくなっている。

政府の「新しい資本主義構想」では、公益財団法人は税制上の優遇措置が設けられている趣旨を十分に踏まえ、視野を広げるとともに公益活動をさらに積極的に行うことが求められる。」と提言している。民間助成事業の幅広さ、細やかさ等を評価しての要望であると想像する。

公益財団法人の多くは個人、母体企業等のビジョンから社会貢献への「願い」や「使命感」などを実現すべく設立されているようだ。動機はさまざまである。

事業目的も「地域社会の健全発展」「児童等健全育成」「高齢者福祉」「奨学金」などが多く掲げられていることから設立の「思い」や「使命感」からなの理解できる。

愛恵財団の場合は、前身の「愛恵学園、愛恵福祉支援財団」からの財産を基金とし、事業プログラムも引き継ぎ公益法人を設立された。

なにを引継ぎ活動することが「使命」か、創設者の「願い」を叶えることになるかを思い「社会福祉の担い手を育てる」を目的とした。具体的事業を海外研修、事業助成、奨学金、講座講習・セミナー、福祉エッセイなどのプログラムを広く提供してきた。参加することによって得られた知識や経験が、社会福祉の実践者と共有でき

たもの、と自己評価させてもらっている。

コロナ・パンデミック経験した。地球温暖化からなどある種の歪みから発生したともいわれ対策に追われ、影響は社会の歪みをあぶりだした。

セーフティネットの脆弱さ、不足から小さき者、弱き者へのしわ寄せが見て取れる。

今日的には、局地的かと思われた戦火が世界を揺るがしてグローバル化された市民生活への影響も現れ始めた。

奪われてはならないもの、持っていないてはならないもの人間の権利、平等を獲得保持するために活躍している社会福祉の実践者が求めているも、役立つことなどに財団の支援の方向見いだしたいと願っている。

愛恵のミッションとして本紙「愛恵だより第7号」に掲載されたステートメントがある。

「愛恵の活動はキリスト歩みにならって生きてきた方々によって担われたのです。このような歩みから愛恵のミッションは国際性、先駆性、献身性にまとめられます。『今、私たちは次の100年にバトンタッチをする時を迎えています。社会の変化、時代の変化に即して、今の時代にふさわしい活動が何か、を具体的な事業として計画し、実行し、成果を上げることが求められます。そのための知恵と力が必要です。そしていちばん問われるのは選択と判断です。』（現理事長・遠藤久江）

ミッション・ステートメントに求められる変化を捉えるため2023年度から「提供する」から「応える」プログラムへと転換した。相互に共有できるプログラムを実現することにより今の時代になかった活動ができると判断した。各種の情報、サービスを他の分野からも求め、結びつけ新しい実践を創り出すことにおいて、今もこれからも時代に適応できるものが創造されるだろう。

海外での福祉事業実践者への支援も、助成する分野は多く広い。海外の小さき者への支援は「愛恵」創設者ミス・ペインへの鎮魂ともなるだろう。

ドイツ研修報告

ソーシャル・ペタゴジの理論と実践を学ぶ

今回のドイツ海外研修は、2023年9月12日（火）～9月24日（日）の12日間、日本キリスト教児童福祉連盟と法人型ファミリーホーム研究会のメンバーが企画し、愛恵財団の後援により実施いたしました。大学教員1名、施設長5名、施設職員4名、研究者2名、現地通訳者1名が参加をしました。

1. 研修の目的

ドイツでの研修を実施したいという企画は、ソーシャル・ペタゴジー（理論であり、思想であり、実践方法であり、専門職である）を学んでいる中で、有志によって、ドイツ海外研修を実施したいという期待が出て、児童福祉現場で働く施設長・職員の方々を対象に視察計画に立てました。それが、今回の当初の目的に沿って実現できました。研修の目的は『ドイツにおけるソーシャル・ペタゴジーの理論と実践を学ぶ - 福祉哲学を基盤に -』としました。ドイツは、ソーシャル・ペタゴジーの発祥の地（源流はペスタロッチに遡ることができる）であり、留岡幸助が家庭学校を設立する上でも影響を与えたことに依り、キリスト教社会福祉の研究者である細井勇氏（福岡県立大学特任教授）に団長をお願いし、現地視察訪問研修を行い、理論と実践がどのようになされているのかを体験する機会を持ち、学ぶ時となりました。

2. 視察研修

研修地へは、9月12日（火）日本からフランクフルト空港に各地から集まり、ケルンにICE特急に乗り、ケルン駅に着き、ホテルで宿泊をし、ケルン市内を観光し、ケルン大聖堂を中心に散策を楽しみました。3日目から研修が始まりました。最初の訪問地はラファエルハウスで、カトリック財団によって1902年に創立され

ました。250人のケアを担い、180人の子どもたちがケアされていました。全てグループケアで、職員は200人（内ベタゴークは140人）で、正に有資格者によってケアが実践されていました。4日目は児童青少年援助セント・ヨゼフでの施設長からの施設説明、トラウマペタゴジー（ソーシャルペタゴジーの土台の上に、医学的・心理学的トラウマの概念が加えられたもの）の実践についての説明を聞き、施設視察を行いました。9月18日（月）～21日（木）は、アーヘンとケルンの中間にある人口9万人のデュレンにあるセント・ヨゼフ・デュレンで視察研修を行いました。今回の研修では、施設長シュライネマッハ氏の施設を中心に、4日間の研修を行いました。1855年に開設され、現在の拠点施設は1953年に建設された建物を母体にして、現在は15の異なるペタゴギックなグループホームに7名の子どもたちなど、130人定員の施設でありました。私たちは2名ずつに分かれて、グループホーム実地体験を行いました。担当者（ペタゴーク）などからの説明、入所の子どもたちとの触れ合いなどを通して体験できました。精神科医ミューラー氏の講義も大いに学びとなりました。デュレン少年局での働きも日本のシステムとは違いを実感出来ました。

週末はモンシャウ観光、アーヘンドームなどの観光、夜はクラシックコンサートを楽しみました。22日（金）はハイデルベルク一日観光を行い、ドイツ最古の大学であるハイデルク大学などを視察し、23日（土）はフランクフルト観光をして、夜にフランクフルト空港から飛び立って帰国しました。



研修光景



研修施設で

2023 年度 ペイン記念奨学金 受給者決定

社会福祉実践分野のリーダーとしての人材育成を目的とし、日本の大学院に在学する学生に年間 100 万円を限度として、授業料相当額及び研究補助費年間 10 万円を奨学金として給付しています。

2023 年度の受給者は以下の 4 人。

本年度の同奨学金の受給者は次の通りです。

- **YA さん 日本女子大学大学院 2 年**
研究のテーマ 「がん患者家族への医療ソーシャルワーク」
- **HM さん 日本女子大学大学院 1 年**
研究のテーマ 「家庭養護から社会に巣立つ若者の自立支援の現状と課題」

- **HH さん 日本社会事業大学大学院 1 年**
研究のテーマ 「ソーシャルワーカーによる専門職倫理としてのセルフケアモデルの構築」
- **SM さん 大阪府立大学大学院博士後期課程 3 年**
研究のテーマ 「不登校児の健康とセルフケア困難」

◆ 過去の受給者へのアンケートから ◆

- 質問 ①現在従事されているお仕事の内容
②大学院での学びが活かされていると思うこと

AS さん 2018 年度、2019 年度神奈川県立保健福祉大学大学院

- ① 児童虐待通告の対応
 - ・在宅支援
 - ・一時保護児童、措置児童への対応等
- ② 大学院では子育て支援について学びました。現在の仕事において、保育士の先生方や保健師の先生方と一緒に連携することも多く、大学院で各々の専門職の支援を学べたことで、スムーズに協同することに役立っていると思います。

KA さん 2019 年度関西学院大学大学院

- ① 社会福祉士養成校の専任教員（次年度より他校での教員となる予定）
- ② 大学院の学び全てが活かされていると思いますが、具体的には 1 年でソーシャルワーカーとなり、現場に出ていく方々への指導は実践と理論が（勿論マインドなども）大切だと思いますが、そういったことを学ぶことができたのは大学院の 2 年間だったと思っています。

JS さん 2019 年度福岡県立大学大学院

- ① 児童福祉司
- ② 最新の研究成果について、現場での支援を参考とすることに抵抗感が少ないです。
 - ・研究テーマが児童福祉に関連した内容でしたので、現在の業務とのつながりを感じています。

TM さん 2021 年度明治学院大学大学院

- ① 自殺を考えている相談者の相談にのり、地域の支援機関につなげている。
 - ・居場所活動の運営等。
- ② 相談者の背景にある課題について、個人よりも社会の課題ととらえて接していること。

- ・個人の困りごとをマクロの視点でもとらえて、政策提言などに繋げて行きたいと考えています。

YM さん 2021 年度、2022 年度日本女子大学大学院

- ① 訪問診療における終末期患者のサポート
 - ・院内運営 NPO 法人事務局業務全般、研究業務等
- ② 自身の研究業務がしやすくなった。特に医師の研究サポートをしやすくなり、これまで以上の高い信頼性を得られている。

ST さん 2021 年度、2022 年度福岡県立大学大学院

- ① 精神科リエゾンチーム（精神保健福祉士）
 - ・両立支援コーディネーター
- ② 多職種の研究や論文について読み解いたり、理解する力が身につけている。
 - ・研究・論文を経験し、再度臨床を繰り返すことで効果的な支援を意識してとりくむようになった。
 - ・今後は関連のある学会で発表する予定です。

NK さん 2021 年度、2022 年度明治学院大学大学院

- ① 指導員、訪問支援員
- ② 発達障がいや障害のあるお子さんへの支援方法。
 - ・園の先生方との連携、自治体の職員さんとの連携。

愛恵福祉支援財団 案内図

J R 駒込駅 東口より徒歩 2 分
北区中里 2-6-1 愛恵ビル 5 F
電話 03 (5961) 9711

